

こんにちは！
めぐりん菜通信をお読みいただきありがとうございます。

今月号は「生ゴミ処理機の減量効果分析」「夏の野菜・果物」の記事をお届けします。

愛知県では、一部地域で集中豪雨の被害が発生していますが三河地方は、総じて少雨。農地は干上がっています。

(担当: 斉藤)

夏の野菜・果物



暑い夏、「野菜は、さぞや元気に」とお思いでしょうが、人間と同じくクタクタの状況です。きゅうりは枯れ、ナスは日焼けでぼろぼろになり秋茄子に備え休憩中。一方、畑では冬野菜への切り替えが始まります。



数少ない元気な野菜がサトイモです。

強い太陽の下、ぐんぐん育ちます。美味しいサトイモは夏に水やりして芋を太らせることが大事です。

栽培期間の長い野菜ですが、霜が降りる頃、収穫の開始です。

めぐりん菜堆肥を使っている、あいさんハウス様の農園にお邪魔しました。

今年初めて栽培した落花生。手が回らず、草ボーボーの状態で恐縮されていましたが、力強く育っています。

10月収穫、まずは自社店舗で販売され就労支援につなげます。



生ゴミ処理機の減量効果分析

お客様より、生ゴミ処理機での減量のうち、「微生物分解による減量効果」と、「攪拌脱水による減量効果」を確認できないかのご要望を頂きました。早速、実験です。



菌床の籾殻に微生物(サーベリックス)を混ぜ、白菜クズを100kgづつ、2日間投入し減量率測定。24時間後は92.9%、48時間後は92.3%を計測。



続いては、微生物を入れない実験です。槽内を減菌の上、上記同様に白菜クズを投入。24時間後は82.7%、48時間後は84.4%の減量率を計測。

結論として、微生物を入れない「機器の攪拌脱水」でも84%の高い減量効果を示す。微生物分解により、上記にさらに8%程度の減量効果が加わることが確認されました。

たった8%？、この違いは、EX、廃棄量が1ト/日、30ト/月の場合、2.4トの廃棄量の違いになり、大きなコストダウンネタの1つになります。